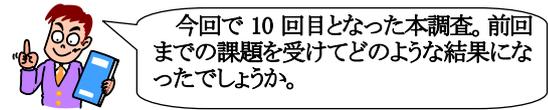


平成24年度「算数・数学つまずき調査・学習意識調査」報告およびまとめ

I 算数・数学つまずき調査結果と考察



1. つまずき調査の実施内容

平成24年11月下旬、飯山市内の8小学校、2中学校、2高等学校に加え、栄村・野沢温泉村・木島平村を含めた4市村内の14小学校、5中学校、2高等学校の協力を得て実施しました。尚、調査問題と実施時間は(表1)のように設定しました。

(表1)

対象	出題分野					合計	H24 5月と共通問題	時間
	小学校問題		中学校問題	高校問題				
小学6年生	7問 (共通)	1問 (小高共通)	6問	8問 (共通)	4問	15問	14問	20分
中学3年生		1問 (小高共通)						
高校2年生	1問 (小高共通)	9問	25問	25問	40分			

- (1) 5月調査と11月調査の間で比較をするために、基本的に同じ調査問題で実施しました。
- (2) これまでの11月(平成22年度まで1月)調査と同様に小6、中3の学習内容問題に一部差し替えをしました。
- (3) 小学校・中学校問題の中に小中高、中高共通問題を設定し、校種間のデータをとれるようにしました。

2. 調査結果の概要

過去3カ年の調査人数、得点率(100点換算)の平均と標準偏差は、(表2)のような結果でした。

(表2)

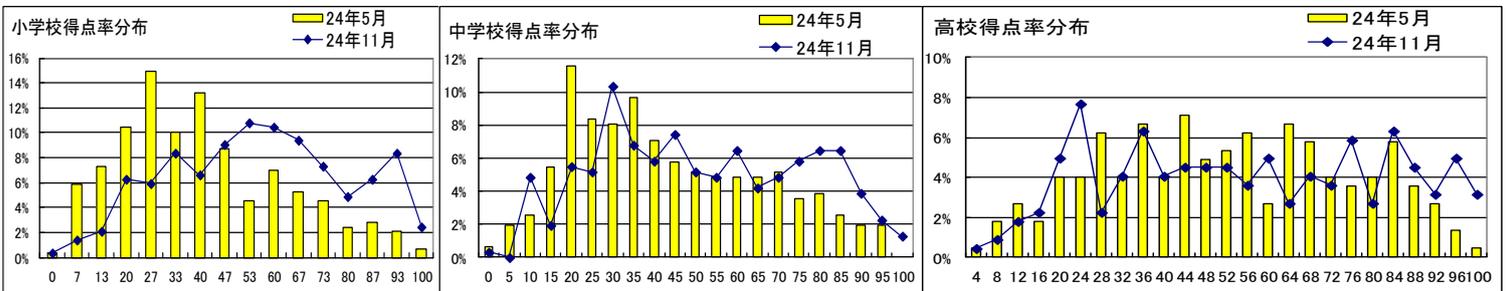
得点率の概要	小学校						中学校						高校					
	H22 5月	H23 1月	H23 5月	H23 11月	H24 5月	H24 11月	H22 5月	H23 1月	H23 5月	H23 11月	H24 5月	H24 11月	H22 5月	H23 1月	H23 5月	H23 11月	H24 5月	H24 11月
データ数	307	302	294	297	288	287	350	338	327	330	310	309	224	206	229	230	225	221
最大値	100	100	100	100	100	100	100	100	95	100	95	100	100	100	100	100	100	100
最小値	7	0	0	0	0	0	0	5	5	10	0	0	12	8	8	12	0	0
平均	51.2	53.5	42.2	52.3	40.5	56.1	48.0	56.9	41.4	49.1	43.3	51.6	59.1	61.5	53.9	56.9	52.0	54.8
標準偏差	21.6	23.5	21.8	23.3	22.5	23.9	23.7	25.0	20.5	22.8	23.2	24.6	21.5	23.2	22.1	24.0	23.6	27.0

※一部の問題を差し替えてあるので、平均を単純に比較することは注意が必要です。

3. 得点率分布

小学校・中学校・高校それぞれの5月調査、11月調査の得点率分布をグラフ(図1)で示しました。5月調査から11月調査にかけての得点率の変化がわかります。

(図1)



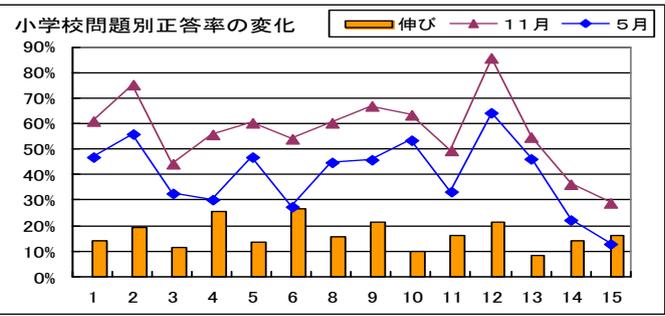
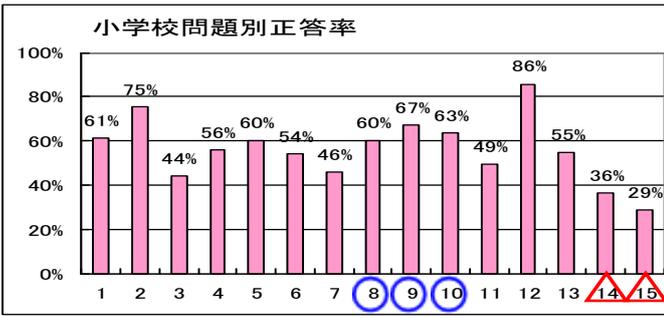
* 小学校では5月から11月にかけて大きく平均が向上しています。また、小学校・中学校・高校のすべてにおいて標準偏差が23を越え、得点率の散らばり度は大きくなっています。(表2)

* 5月の調査と比べると、小学校・中学校では分布が全体的に右に移動(得点率が上昇)しています。特に、小・中学校ではやや二極化が見られるものの、得点率の高い層が大きく増加しています。各学校における指導の成果が現れていると思われます。また、高校では得点率が高い層と低い層がともにやや増加しており、つまずきの差がより一層大きくなっています。(図1)

4. つまずき調査の問題別正答率

(1) 小学校 ※△は正答率が40%未満の問題

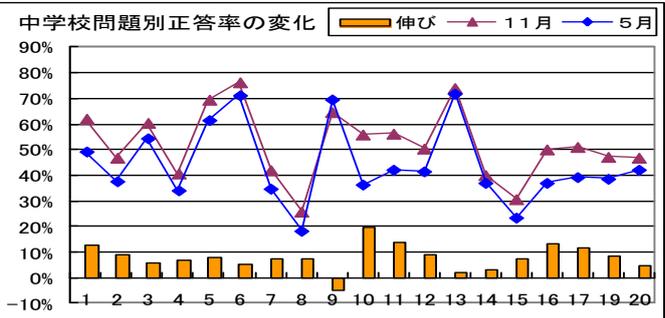
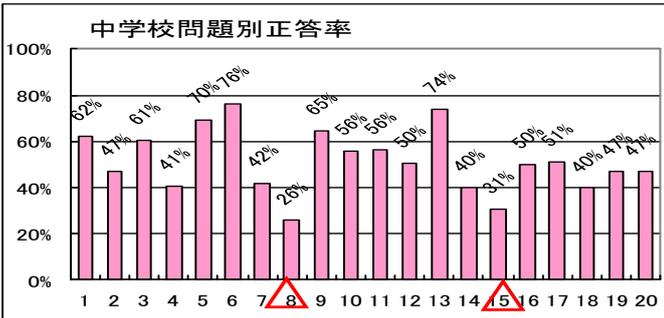
(図2)



- ①正答率60%以上の問題は7問(5月調査は1問)でした。(1)(2)(5)(8)(9)(10)(12)下線の問題が今回新たに60%に到達
- ②正答率40%未満の問題は2問(5月調査は6問)でした。(3)(4)(6)(11)が今回新たに40%に到達
「14: 正方形の面積と周の長さ(小4年)」「15: グラフから割合の変化を読み取る(小5年)」
- ③同一問題14問すべての正答率が上昇しました。

(2) 中学校 ※△は正答率が40%未満の問題

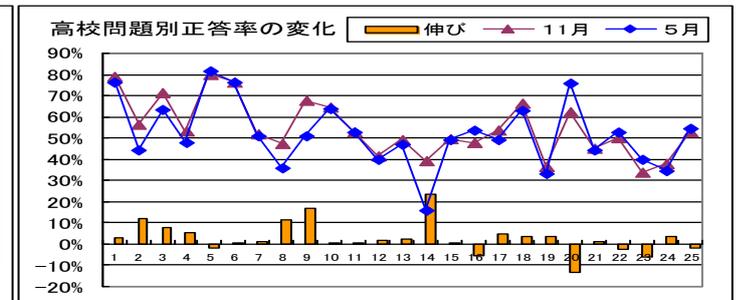
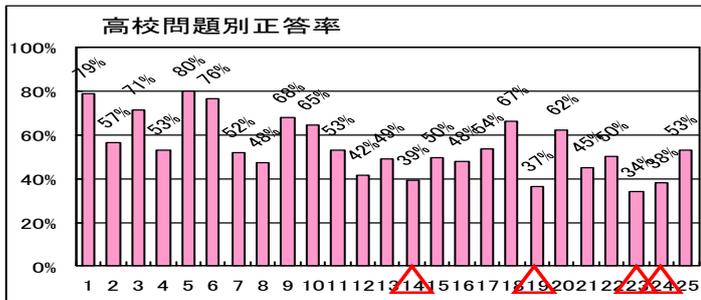
(図3)



- ①正答率60%以上の問題は6問(5月調査は4問)でした。(1)(3)(5)(6)(9)(13)下線の問題が今回新たに60%に到達
- ②正答率40%未満の問題は2問(5月調査は11問)でした。(2)(4)(7)(10)(14)(16)(17)(19)が今回新たに40%に到達
「8: グラフから割合の変化を判断する(小5年)」「15: グラフから一次関数の式を求める(中2年)」
- ③同一問題19問中18問の問題の正答率が上昇しました。
「9: 指数を含む四則計算(中1年)」で正答率が低下しました。

(3) 高校 ※△は正答率が40%未満の問題

(図4)



- ①正答率60%以上の問題は8問(5月調査は7問)でした。小(1)(3)(5)(6)中(9)(10)高(18)(20)
- ②正答率40%未満の問題4問(5月調査は4問)でした。
「14: $y=ax^2$ のyの変域(中3年)」「19: 絶対値の計算」「23: 二次関数のグラフから符号を読み取る」
「24: 直角三角形の $\sin\theta$ の計算」
- ③25問中19問の正答率が上昇しました。
「5: 割合(30%引きの代金)」「16: 連立方程式の利用」「20: 二次方程式」「22: 放物線の頂点」
「23: 二次関数のグラフから符号を読み取る」「25: 角の二等分線と比の性質」で正答率が下がりました。



* 小学校・中学校においては、ほとんどの問題の正答率が5月調査と比べ上昇し(図2, 3), 正答率が60%を超える問題の数が増え, 40%に満たない問題の数が減りました。また, 昨年度の11月調査と比べても正答率が高くなっている問題が多く見られます(小学校:14問中11問, 中学校:19問中15問)。
* 小学校では, 5月調査でも正答率が高くなってきていた割合の問題(図2グラフ中の○部分)は, 今回も正答率が上昇し, (8)(9)(10)いずれも正答率が60%に達し, つまずきが解消されてきています。(詳しくは4ページ参照)
* 高校では, 小学校の8問中7問, 中学校の8問題中7問で正答率が5月調査と比べ上昇しました(図4)。「14: $y=ax^2$ のyの変域」は20%以上伸びており, 高校での学習を通じ, 小学校・中学校の内容のつまずきが解消されてきています。

5. 小学校・中学校・高校の共通問題の結果

小学校・中学校・高校の正答率は(図5)のようになりました。

(1) 小学校と中学校の正答率比較

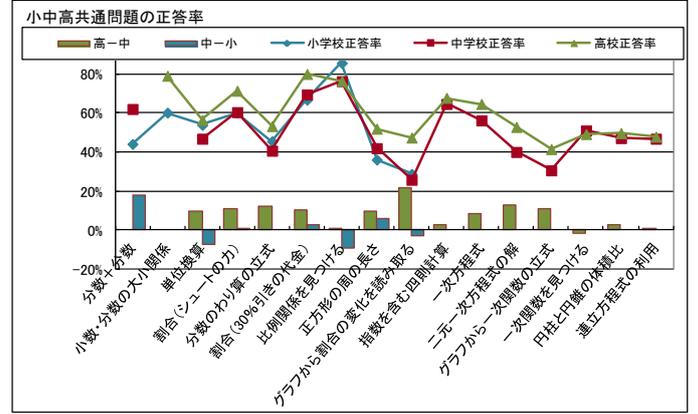
「単位換算」「分数のわり算の立式」「比例関係を見つける」「グラフから割合の変化を読み取る」の4問で小学校が中学校の正答率を上回りました。

(2) 中学校と高校の正答率比較

「一次関数を見つける」の1問で中学校が高校の正答率を上回りました。

(3) 小学校と高校の正答率比較

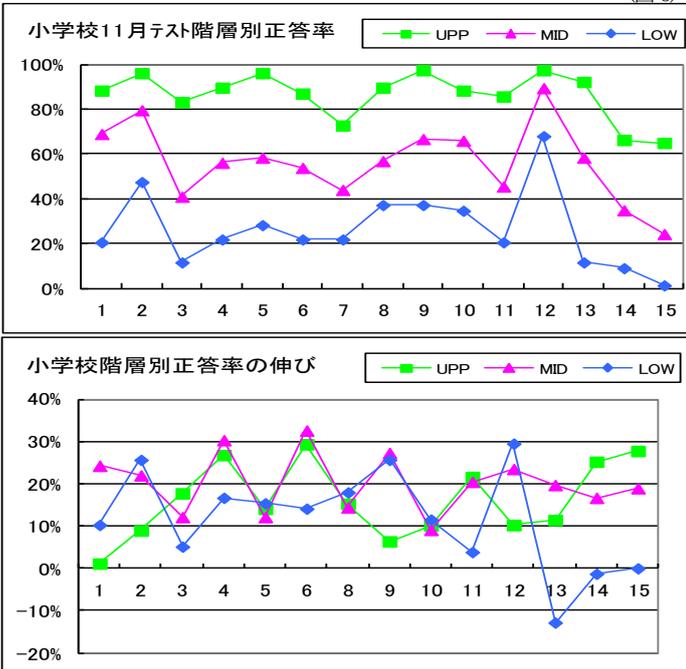
「比例関係を見つける」の1問で小学校が高校の正答率を上回りました。



6. 階層別正答率結果の分析 (UPP層:上位27%, MID層:中位46%, LOW層:下位27%)

小学校・中学校・高校の階層別正答率と、5月調査から11月調査への伸びは以下のようにになりました。

(1) 小学校階層別正答率結果と階層別正答率の差および伸び (図6)



①正答率が最も低かった問題

すべての階層において「15:グラフから変化の割合を読み取る」の正答率が最も低くなりました。

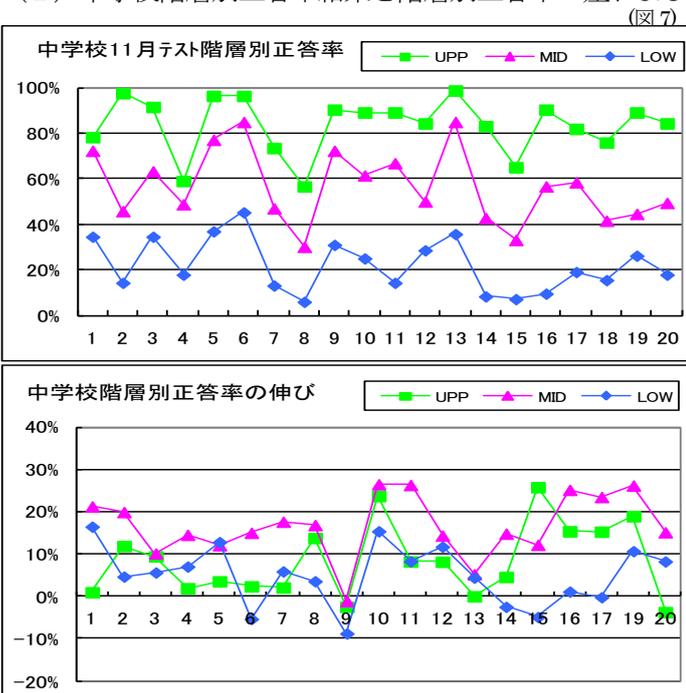
②階層ごとの正答率の差

「14:正方形の周りの長さ」「15:グラフから変化の割合を読み取る」はUPP層でのみ正答率60%を超えました。「1:四則計算」「9:割合(30%引きの代金)」「10:割合(定員を求める)」はUPP層で正答率80%, MID層で60%を超えましたが、LOW層では40%に満たなかったのでつまずきがあると思われます。

③階層ごとの正答率の伸びについて

「2:整数一分数」「9:割合(30%引きの代金)」はMID・LOW層が大きく伸び、「11:単位量あたりの大きさ(花壇の球根)」「14:正方形の周りの長さ」「15:グラフから割合の変化を読み取る」はUPP・MID層が大きく伸びました。「13:三角形の面積」「14:正方形の周りの長さ」ではLOW層の伸び率がマイナスになりました。

(2) 中学校階層別正答率結果と階層別正答率の差および伸び (図7)



①正答率が最も低かった問題

すべての階層において「8:グラフから変化の割合を読み取る」の正答率が最も低くなりました。

②階層ごとの正答率の差

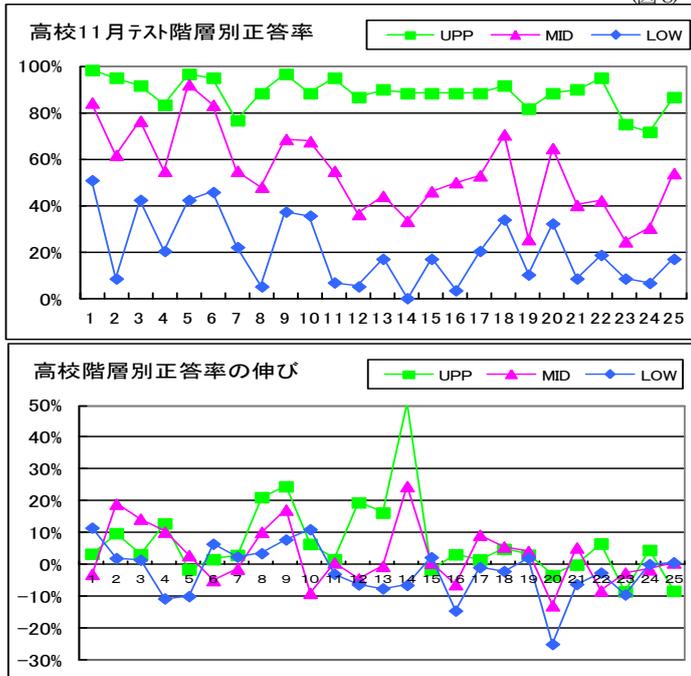
「3:割合(シュートの力)」「5:割合(30%引きの代金)」「9:指数を含む四則計算」「10:文字式の計算(分数式)」「11:一次方程式」「13:3位数を文字式で表す」はUPP層で正答率80%, MID層で60%を超えましたが、LOW層では40%に満たなかったため、つまずきがあると思われます。

③階層ごとの正答率の伸びについて

「15:グラフから一次関数の立式」「16:反比例するyの値」「17:一次関数を見つける」などの中学校問題において、UPP・MID層では大きな伸びが見られました。「6:比例関係を見つける」「9:指数を含む四則計算」などではLOW層の伸び率がマイナスになりました。これらのことが正答率の差に影響していると思われます。

(3) 高校階層別正答率結果と階層別正答率の差および伸び

(図8)



①正答率が最も低かった問題

UPP層で「24:直角三角形の $\sin \theta$ の計算」、MID層で「23:二次関数のグラフから符号を読み取る」、LOW層で「14: $y=ax^2$ の y の変域」の正答率が最も低くなりました。

②階層ごとの正答率の差

「12:グラフから一次関数の立式」「14: $y=ax^2$ の y の変域」はUPP層のみ正答率が80%を超えました。「2:単位換算」「9:指数を含む四則計算」「10:一次方程式」「18:3乗の展開式」「20:二次方程式」はUPP層で正答率80%、MID層で60%超えましたが、LOW層では40%に満たなかったのつまりぎがあると思われます。

③階層ごとの正答率の伸びについて

「14: $y=ax^2$ の y の変域」はUPP・MID層で正答率が大きく伸びました。「12:グラフから一次関数の立式」「13:一次関数を見つける」はUPP層のみ正答率が伸びました。「20:二次不等式の解」「23:二次関数のグラフから符号を読み取る」はすべての階層で伸び率がマイナスになりました。一年次前半の内容の確認が必要だと思われます。

- * 小学校では「13:三角形の面積」「14:正方形の周の長さ」のような図形の問題において、階層ごとの正答率の伸びに大きな差が見られました。特にLOW層では、伸びがマイナスになっており、より丁寧な指導が大切になると思われます。
- * 中学校では、「15: グラフから一次関数の立式」「16: 反比例する y の値」「17: 一次関数を見つける」などの関数の問題において、UPP・MID層では正答率が大きく伸びた一方、LOW層ではあまり伸びが見られませんでした。
- * 高校では、各校種の後半、単純な計算では求めることのできない問題について、LOW層の伸びがマイナスとなっており、問題文の読み取りも含めた、丁寧な学びなおしが必要です。

7. 4年間のつまずき調査から見てきたこと～「割合」の問題におけるつまずきの解消～

つまずき調査では、割合・比などの正答率が低いことが、調査を開始した初年度から課題になっています。事務局ではこのつまずきを解消するために様々な取り組みを行ってきました。

「割合」については、平成21年度以降は調査問題の中に次の3問を設け、経年比較をしながら検討をしてきました。

小学校において、21年度から平成24年度までの4年間のこれらの問題の正答率は、右のグラフのようになります。

破線のグラフが5月調査を表し、実線のグラフが11月調査（平成21・22年度については1月調査）を表しています。すべての年度、すべての問題において実線のグラフは破線のグラフの10ポイント程度上にあり、5月調査から11月調査にかけて正答率が上昇していることがわかります。同一年度内における先生方の指導の成果がここに現れています。

また、11月調査同士を比較した実線のグラフの経年変化を見ると3問とも調査開始時より大きく上昇していることがわかります。平成24年度には3問とも正答率が60%に達し、つまずきはかなり解消されてきたと見る事ができます。「割合」に対する指導がよりよいものになってきている成果だと考えられます。

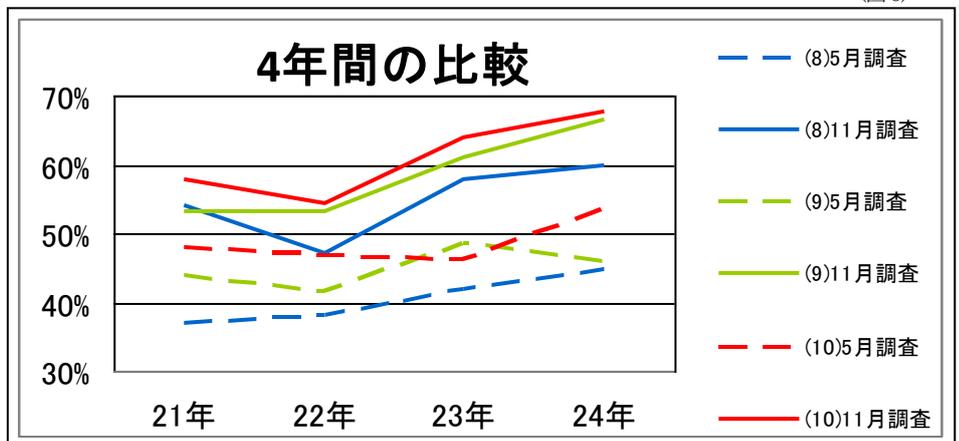
(8) A君、B君、C君、D君の4人がサッカーのシュート練習をしたところ、ボールをかけた数とゴールに入った数が次の表のようになりました。この結果から、4人の中でだれが一番ゴールに入れる力があると考えられますか。

	A君	B君	C君	D君
かけた数	5	6	6	8
ゴールに入った数	3	3	4	5

(9) 定価が2000円のシューズを30%引きで買いました。代金はいくらですか。

(10) 夏休みに飯山市で体験教室を開きました。魚つかみ体験の希望者は60人で、これは定員の1.2倍にあたるそうです。魚つかみ体験の定員は何人ですか。

(図9)



破線のグラフが5月調査を表し、実線のグラフが11月調査（平成21・22年度については1月調査）を表しています。すべての年度、すべての問題において実線のグラフは破線のグラフの10ポイント程度上にあり、5月調査から11月調査にかけて正答率が上昇していることがわかります。同一年度内における先生方の指導の成果がここに現れています。

II 学習意識調査結果と考察

1. 質問に対して肯定的な回答の割合

「他の解法はためになる」「途中も書く」「みんなで考える方がよい」という項目の割合が、小・中・高通じて高い傾向にあります。



質問の選択肢が「①とてもそう思う」、「②少しそう思う」、「③あまりそう思わない」、「④まったくそう思わない」の4つである質問項目について、肯定的な回答（①と②の合計）の割合と、その変化を調べると、次のようなグラフ（図10～12）になりました。

(1) 小学校の結果（図10）

多くの項目で肯定的な回答の割合が高く、11月調査で80%を超えるものは8項目でした。特に高かった項目は「算数・数学は役立つ(93%)」「授業はよくわかる(92%)」「みんなで考える方がよい(90%)」「宿題は毎日やる(94%)」でした。全体追究の中では算数の有用性やみんなで考えることの良さを実感できており、日頃の指導の成果が現れていると思われます。

50%を下回った項目は「発言や質問をする(42%)」で、これは中学校(47%)・高校(15%)でも同様の傾向でした。

5月調査と比べて11月調査の方が肯定的な回答の割合が増加した項目は「みんなで考える方がよい」「練習問題の時間がある」で、減少した項目は「解くのは楽しい」「途中も書く」でした。

今後、「みんなで考えて」「自分の解き方と違う解き方」を理解しながら、「練習問題」「毎日の宿題」を行うことで算数のつまづきをなくし、定着を図っていく必要があると思われます。

(2) 中学校の結果（図11）

肯定的な回答の割合が11月調査で80%を越えた項目は、「他の解法はためになる(90%)」「練習問題の時間がある(88%)」など6項目でした。中学校の授業では練習問題の時間が確保できており、「数学の学習を楽しい」と感じつつ、「いろいろな解法で解く」ことは、生徒にも定着しているものと思われます。

50%を下回った項目は「発言や質問をする(47%)」「地元で暮らしたい(47%)」の2項目でした。特に後者については5月調査よりも11月調査の方が減少しました。

肯定的な回答の割合は多くの項目で5月調査より11月調査の方が高くなっており、特に増加したのは「解くのは楽しい」「いろいろな方法で解く」「他の解法はためになる」でした。減少したのは「理由も理解する」でした。中学校の数学も総復習となり、やや難しいと感じているようです。また家庭学習では「勉強時テレビを消す」「計画をやり通す」「宿題はちょうどよい」が増加しました。

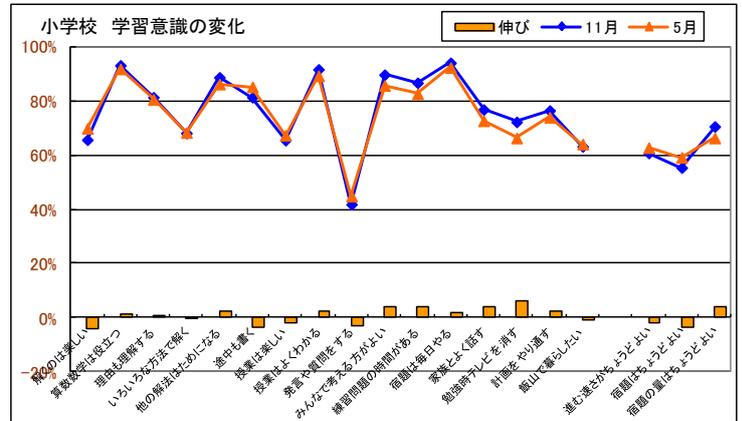
(3) 高校の結果（図12）

肯定的な回答の割合が11月調査で80%を越えた項目は「他の解法はためになる(82%)」「途中も書く(81%)」の2項目でした。

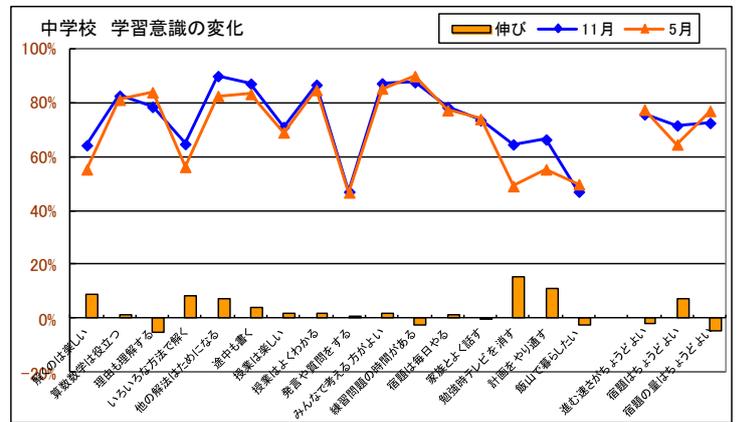
50%を下回った項目は「発言や質問をする(15%)」「宿題は毎日やる(26%)」「地元で暮らしたい(42%)」「宿題(難易度)はちょうどよい(48%)」「宿題の量はちょうどよい(41%)」の5項目でした。

「解くのは楽しい」「授業は楽しい」は、5月調査では50%を下回っていましたが、11月調査ではいずれも増加しました。中高交流の活動を通して、高校でも授業の様子が変わったからではないかと思われます。また、11月調査では「理由も理解する」「途中も書く」「授業はよくわかる」が5月調査と比べて減少しましたが、これは授業の内容の難化に伴うものと考えられます。「宿題は毎日やる」が減少したことは後述の「平日と休日の家庭学習時間」の項目と合わせ、つまづき調査の得点率分布の二極化が進んだ原因になっているのではないかと思われます。

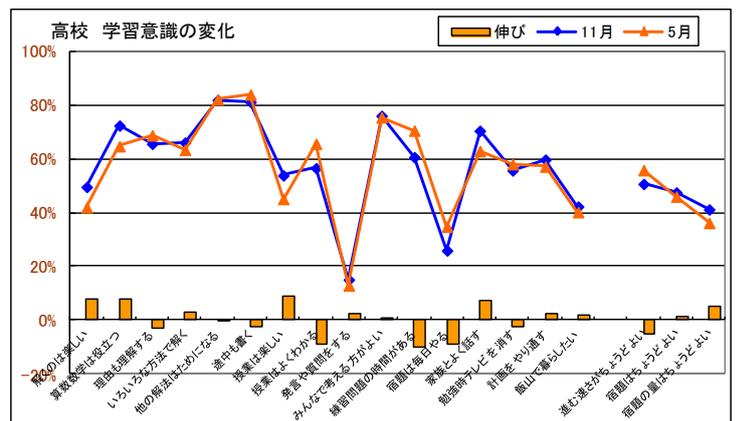
(図10)



(図11)



(図12)



2. その他の項目について

(1) 算数・数学で好きな分野と嫌いな分野 (図 13～15)

① 小学校では、平成 23 年度までは「計算」「グラフや表」「図形」「ない」の 4 つの選択肢だったものを、今年度から (図 13) の 5 つに変更しました。5 月・11 月調査ともに「図形」が好きであり、「数量関係」が嫌いな分野である様子が見られます。平成 20～22 年度は「計算」が 5 月調査から 1 月調査にかけて嫌いな分野から好きな分野に移行するという傾向が見られましたが、「数と計算」「数量関係」に変更された事によって、好き嫌いの分野がより明確になったのではないかと思います。

② 中学校では、平成 23 年度までは「式の計算・方程式」「関数・グラフ」「図形」「確率」「ない」だったものを、今年度から (図 14) のように分野名称を変更しました。5 月・11 月調査ともに好きな分野が「数と式」で、嫌いな分野が「図形」である様子が見られます。「図形の証明、空間図形の性質など」に苦手意識を感じた生徒が多かったものと思われます。

③ 高校では、5 月・11 月調査ともに好きな分野が「式の計算・方程式」で、嫌いな分野が「関数・グラフ」である様子が見られます。これは過去 4 年間の調査と比較しても、同様の傾向を示しています。

④ 小中高を通して「計算」が比較的好きな分野であり、嫌いな分野は小学校・高校が「関数」で、中学校では「図形」である様子が見られます。

(2) 平日と休日の家庭学習時間 (図 16～17)

① 小学校では、5 月調査と 11 月調査を比べても大きな変化は見られませんでした。中学校では「ほとんどしない」「約 30 分」が減少し、11 月調査では中学校全体で学習時間が大きく増えています。高校では平日・休日ともに「ほとんどしない」が 11 月調査で増加し、休日の「2 時間以上」が増加しています。つまり調査の得点率分布の二極化が進んだ原因になっているのではないかと思います。

② 平日と休日とを比べると、小学校では休日の方が学習時間が少ない傾向にあります。中学校では、5 月調査では平日・休日で大きな差は見られませんが、11 月調査では平日よりも休日の方が学習時間が多くなる傾向にあります。高校では 5 月調査と 11 月調査ともに「ほとんどしない」に、平日では 40% 以上、休日では 30% 前後の生徒が回答しており、つまり調査の LOW 層の正答率が低い原因になっているのではないかと思います。

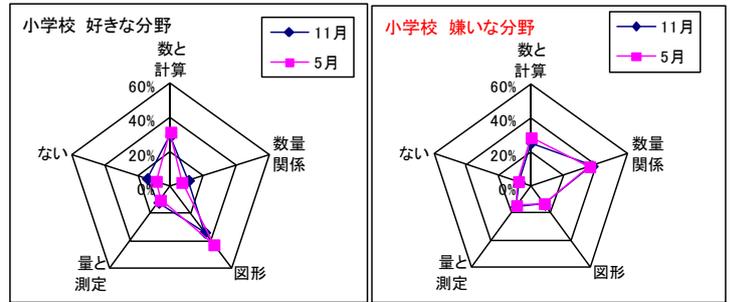
(3) 授業で分からないことがあったら (図 18)

① 小学校では、5 月調査と 11 月調査とを比べて、「先生に聞く」よりも「友人に聞く」の方が多くなりました。「みんなで考える方がよい」の項目で肯定的な回答の割合が高かったことと合わせて、全体追究の浸透が感じられます。

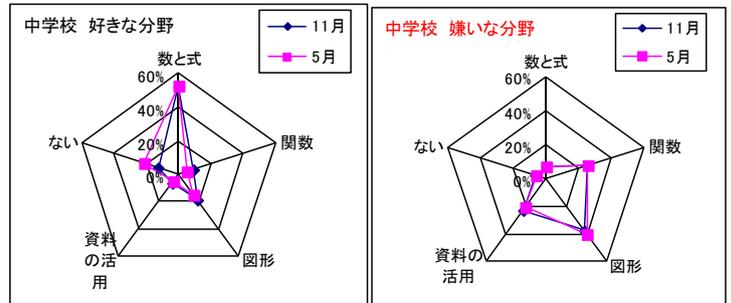
② 中学校では、11 月調査では「自分で考える」「先生に聞く」が増加しています。「友人に聞く」よりも個人追究を深めて、それでも分からないときは先生を利用するという傾向が見られます。

③ 高校では、11 月調査では「先生に聞く」が増加しました。内容の難化に伴い、「発言や質問をする」が 5 月調査より増加していることと合わせて、先生を積極的に利用する傾向が見られます。

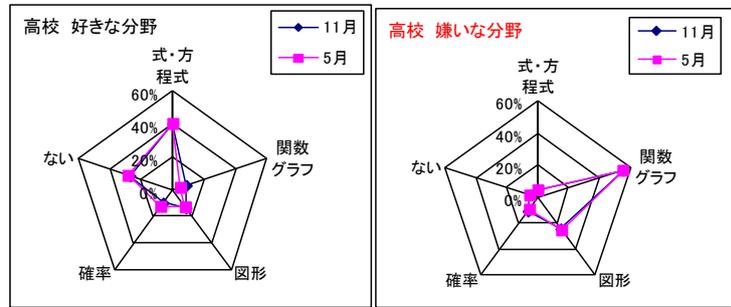
(図 13)



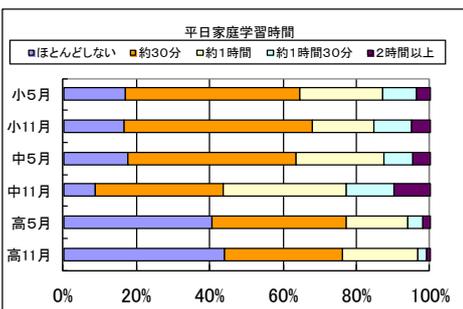
(図 14)



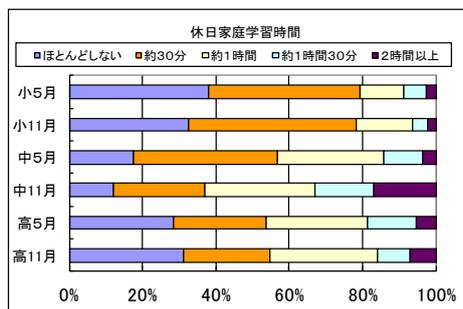
(図 15)



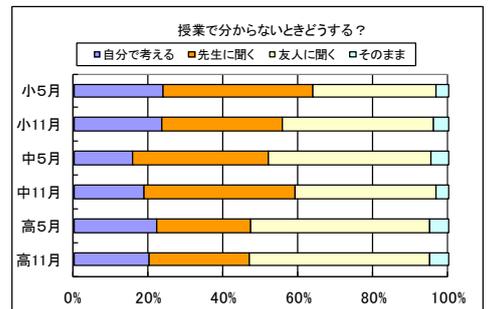
(図 16)



(図 17)



(図 18)



Ⅲ 週末わくわくプリントの提案

(1) 「3-Step プリント」から「週末わくわくプリント」へ

事務局では、授業と家庭学習を結びつけていくことを目的とした「3-Step プリント」について、一昨年度から提案をしてきています。「プリントのよさはわかるが、小学校の授業で毎時間プリントを用意することは難しい。」という声をもとに、本年度は 3-Step プリントの趣旨を生かした週末用の家庭学習プリントを作ったらどうだろうかという発想から、「週末わくわくプリント」を作成し、戸狩小学校の 6 年生に協力をお願いし、試験的に使用してきました。

(2) プリントの構成

プリントは次のような 3 部構成になっています。また裏面に解答を載せ、自分で答え合わせができるようにしています。

①<今週の学習を確実に！>

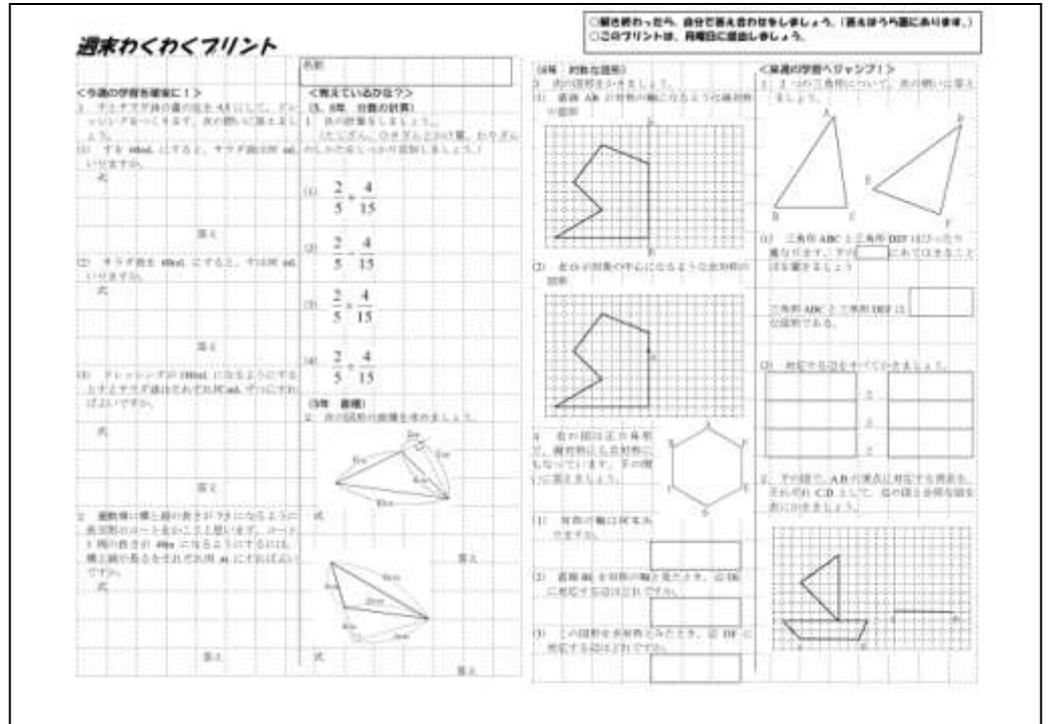
その週の月曜日から金曜日までの学習内容に直結するものです。日々の家庭学習と重複する部分もありますが、特に重要だと思われることや授業の中で特別に取り上げたことについて組み入れています。

②<覚えているかな？>

以前に学習した内容についての復習です。6 年生の内容だけでなく、4,5 年生の内容なども含めて学び直しができるようにしたいいわゆる「スパイラル学習」になっています。つまずき調査の中で、つまずきがあるとされている問題を取り入れたり、児童の苦手なところは同じ問題を何度か繰り返し取り入れたりしています。

③<来週の学習へジャンプ！>

来週の学習内容について考えていく上で必要となりそうなことから（既習事項）を思い出すことができるようにするための問題です。6 年の内容の場合もあるし、学年をまたいで振り返ることもあります。



(3) 今年度の実践から

年間を通して金曜日に配布して、月曜日に提出をするという週 1 回のペースで継続をしてきました。つまずき調査の結果からも、プリントを使用したことが一定の成果を上げることにつながったと考えられます。また、6 年生の子どもたちに行ったアンケート調査からは、「ちょうど忘れていたときに、おさらいとして出してくれるからとても役に立った。」「今までやったことを忘れていてもプリントで思い出せる。」(以上<覚えているかな？>について)「次の単元をやっているときに『これはプリントに出てたことだな』と振り返られた。」「前に習ったことも使ってやることがわかったから」(以上<来週の学習へジャンプ！>について)などの声が寄せられ、子どもたち自身もプリントのよさを感じながら学習していることがわかります。

(4) 今後の方向

事務局では、「家庭学習をいかに授業と結びつけることができるか、またその家庭学習の中にいかに以前の学習内容の復習を取り入れていくことができるか」を取り組みの 1 つの柱として考えていきます。今回紹介した「わくわく週末プリント」と昨年度に紹介した「3-Step プリント」をそのための方法として提案をしています。「わくわく週末プリント」については、ここまで作成してきたものすべて（およそ 30 種類）を HP 上で閲覧できるようにしていきますので、参考にいただければと思います。

それぞれの学級・授業で「家庭学習をいかに授業と結びつけることができるか、またその家庭学習の中にいかに以前の学習内容の復習を取り入れていくことができるか」をぜひ考えてみてください。そして、その実践の様子を事務局へお知らせください。それぞれの取り組みを交流させながら、よりよいものにしていくことが児童生徒の学力向上につながっていくと考えています。ご協力をよろしくお願いします。

IV まとめ

(1) 研究や取り組みの成果

①授業交流

今年度も、日台教諭（城北中学校）が飯山北高校の1年生に3時間と、飯山市内の小学校に週8時間。岩橋講師（飯山北高校）が城南中学校の3年生に週2時間、伊藤教諭（飯山北高校）が城北中学校の3年生に週2時間、それぞれ授業交流を行いました。戸狩小学校では「週末わくわくプリント」を使用して、授業と家庭学習の関連について実践させていただきました。年間を通して異なる校種の教員が授業に入ることによって小・中・高の児童生徒たちがつまずき内容に類似性があることを実感し、算数・数学の学習内容の系統性を活かしたつまずきの解消を模索しました。また、異校種間での交流を通して、小中の丁寧な授業、高校の演習を中心とした授業など授業方法についても交流を深めました。



【授業交流】
←城北中学校
飯山北高校→



②調査問題の実施と活用

岳北4市村すべての小・中学校と市内の高校に協力していただき、PDCAサイクルの一環として年2回の調査を実施しました。5月調査(プレテスト)の集計結果を各校に報告し、関係される先生方のご協力をいただき、つまずきの大きい内容を意識して授業改善など取り組んでいたことにより、11月調査(ポストテスト)ではつまずきのある問題が減り、全体の正答率が上がりました。特に「割合」の問題でのつまずきが解消に向かっていることは、先生方のご指導の成果であると感謝しています。11月調査の集計結果も、さらに活用していただきたいと思っております。

③情報の共有

つまずき調査・学習意識調査は、各校別に報告と説明をさせていただきました。調査報告のまとめやD-Linesの活用パンフレットを作成し、調査協力校に配布いたしました。今年度は7月12日(木)城北中学校・飯山北高校において公開授業および昨年度の研究報告会を行いました。さらに、1月22日(火)には市内の小学校5年生の担任、中学校・高校の数学科の先生方にご参加いただき、「算数・数学つまずき調査・学習意識調査説明会」を予定しています。IC通信については第17号～第19号まで発行しました。HPで随時更新していきたいと思っております。

④北高チューター

夏と秋の年2回「北高チューター」として高校生が中学校を訪問し、学習の手助けや学校生活等について、生徒同士の交流による学力向上の取り組みを行いました。今年度も市内2中学と野沢温泉中学校の3校で実施しました。高校の2次統合を控え、(現)飯山高校の生徒がチューターとして参加したことも大きな成果でした。



【北高チューター】城南中学校

(2) 次年度へ向けて

①授業交流など

市内2中学校と高校の授業交流を継続し市内全体の子どもの学力向上に努めたいと考えています。また、小学校との授業交流も継続して行い、小・中・高が連携してお互いのよさを取り入れ、算数・数学を系統的に指導していけたらよいと思います。これらを多くの先生方に参加していただけるように継続・発展させていきたいと考えています。

②調査問題について

引き続きPDCAサイクルの一環として、5月調査、11月調査の年2回の調査を行いたいと思っております。各校の先生方のご意見をいただき、CRTや全国学力テストとも関連性を持たせながら問題を吟味して、調査を継続したいと考えます。また、小・中・高で苦手とする分野に系統性があるのかを分析し、原因の追求と解決を模索していきたいと考えています。引き続き「正答が得にくい問題・概念を教えるための教材開発」、「日常生活に関係した材料等を使った活用力を問う問題開発」にも取り組みたいと考えます。

③教材研究と情報の共有化

学習指導要領に合わせて、小・中・高での情報共有および各校内学年間での情報共有を深めていくことが大切であると考えます。つまずきのある分野やその指導方法について、事務局でも各校での取り組みを集約し、HPなどで発信していきたいと思っております。

小・中・高のグランドカリキュラムデザインを利用し、内容のつながりを意識することでの授業改善へ向けて取り組みたいと考えます。特に「D-Lines」については、導入の時期から各学年における系統性を持った使用方法を研究していきたいと考えています。また、「3-Stepプリント」や「週末わくわくプリント」の内容・事例の充実と活用を目指し、実践へ向けて先生方からの協力もいただきながら作成・活用していただけるように進めていきたいと思っております。

④北高チューター

今年度と同様に、夏と秋の年2回「北高チューター」を実施したいと思っております。さらには大学生の参加により、児童・生徒同士の交流と同時に、大学生の地域での活躍の場としても活用していきたいと考えています。